



「グラウンドゴルフ大会」は秋の恒例イベント。子どもたちの参加もある



子どもたちも楽しみに訪れる「コミセン祭り」。抽選会はそのメインイベントの一つ



校区の歴史や情報を伝える「慶徳だより」。読み応え抜群だ



慶徳校区自治協議会の伊藤博文会長(右)と慶徳だより編集長の西村辰則さん(左)

慶徳校区 (平成25年4月現在)

人口計: 3,457人
世帯数: 2,158世帯
町内自治会数: 8



発行され、全戸配布されています。編集長は第2町内自治会長の西村辰則さん。地域の活動紹介だけに留まらず、イベント、人物紹介、慶徳の歴史を紐解くページなどかなり読み応えのある内容となっています。次号は3月に発行。「辛島町・辛島公園にその名を残す「辛島格」(からしまいたる)」について取材中です。辛島格氏は、市街地の発展に尽くした明治時代の熊本市長で、辛島町の名前の由来となった人物です。「こんなことを地域でやってるんだと思ってもらうことで、地域おこしに一役買えるんじゃないかと思っています」と語ってくれました。

「なにかと思っています」と西村さんは言います。子どもたちと、その親や高齢者などが共に楽しめる行事を作り、校区住民にまちの情報を伝えていくことが、今後のまちづくりを支える、という伊藤さん。「現在PTA役員の半数がマンションの住民です。いずれは、この中から将来の校区自治協議会役員が出て、まちづくりを担うのかもしれない。新旧の住民が情報を共有し、一緒に考えていくことが、未来の町を作ることになると思い、頑張っていきたいと思っています」と語ってくれました。



「慶徳小イルミネーション」今年のテーマは馬とオリンピックと富士山

**小さな校区らしさが
生きる住民一体の
行事づくり**

ほかに、校区が行われている行事が、慶徳校区にはたくさんあります。「慶徳校区は小さな校区ですが、その小ささを活かして、地域・学校・住民が一つになり、いろいろな行事を行っているんです」と伊藤さんは言います。小学校では、正月にミニどんどや、夏には盆踊り大会が行われ

年健全育成協議会とまちづくり委員会が始めたもの。慶徳小学校の壁をカラフルなイルミネーションで飾っています。イルミネーションの内容は毎年変わり、その時の話題のものを児童がデザインします。このデザインを基に、保護者と地域の各種団体のメンバーが、ほぼ半日をかけて、LED照明を組み上げます。完成したイルミネーションは校舎北側壁面へ飾られ、毎年、校区の人々の目を楽しませています。

**まちの動きを共有する
『慶徳だより』**

校区には、年に2回発行されている地域新聞『慶徳だより』があります。これは、地域の方の「おんなじ校区に住んでいる他の団体の人が何をやっているのか知りたい」という声をきっかけに

れます。河川敷でもいろいろなイベントが開催され、2月には白川河川敷歩こう会を開催。白川の河川敷約8キロを、校区住民で歩き、終わった後は校区の方が手作りした味噌汁やおにぎりを振る舞います。その他、河川敷での花見、グラウンドゴルフ大会やコミセン祭りなども実施しています。四季にあわせた様々な行事を開催しています。また、白川河川敷沿いという特徴を活かし、夏休みには、青少年健全育成協議会の主催で「慶徳教育キャンプ」を開催。白川清掃のほか、カヌー体験やバーベキュー体験など、自然に親しむ活動を行っています。